

## 施 政 方 針

本日、令和3年第4回市議会定例会の開催にあたり、今後の市政運営について、私の所信の一端を表明する機会を与えられましたことに対し、深く感謝申し上げます。

また、4月11日執行の市議会議員選挙におきまして、ご当選の榮譽を得られました議員各位に対し、改めてお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍を期待申し上げます。

私も市民の皆様から市政運営を負託され、市長として重責を担わせていただくこととなりました。改めて責任の重さを痛感するとともに、身の引き締まる思いでございます。

市民の皆様からのご期待に応え、市民の皆様一人一人の幸せのため、そして佐野市の発展のため、全身全霊を尽くし、市政運営に当たってまいる決意でございますので、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

私が政治家としての一步を踏み出したのは、市議会議員選挙への立候補を決意した平成3年、まだ28歳でございました。

尊敬する先輩から「佐野市を変えてみろ」といわれ、心を大きく動かされました。立候補を決意するに至るまで、佐野市の将来について多くの方と語り合い、私なりに考え、悩み、苦しみ、戸惑い、そうした中、多くの皆様から温かい励ましをいただき、そのご期待に応えなければならないと覚悟を決めたのでございます。あのとき私に託された多くの皆様の思いは、30年経った今でも、私の中でまったく薄れることはありません。

私が30年間の政治活動を通して学んだことは、「人とのつながり」がすべての根源にあるということでございます。それは、ときに励まし合い、ときに助け合う、身近な「人とのつながり」であります。

私たちは、令和元年東日本台風(台風第19号)により、突然、かつて経験したことがない甚大な被害に見舞われました。私は、一夜にして変わり果てた景色に驚愕し、無力感を感じつつも、各地域において、被災された方々から相談を受け、現場を確認しながら復旧の支援などに努めてまいりました。その中で私が目にしたのは、被災された方々がお互いに助け合う姿、市民の皆様が奮闘される姿、ボランティアを始めとして全国各地から支援に駆けつけてくださった方々が汗を流す姿、事業者の皆様

が昼夜なくご努力くださる姿、自衛隊の皆様が献身的に復旧作業や被災者の支援活動に当たられる姿、国や全国の自治体の方々が様々な形でご協力くださる姿でございました。

また、昨年から続く新型コロナウイルス感染症への対応では、未知のウイルスの脅威に直面し、自宅に留まることや人との接触を減らすことが求められ、人と会えない、人が集まれないという事態に陥りました。こうした中、目には見えなくとも人は人との絆の中で生きている、人との絆があるから人は生きていける、人との絆がなければ何事も成し遂げることができないということを教えられ、「人とのつながり」の大切さについて、改めて考えさせられました。

自然災害や感染症などの脅威にさらされ、何が起こるか分からない不透明、不安定、不確かな社会にあって、これまでは想定外とされてきた不測の事態を、これからはすべて想定内のものとして解決していかなければなりません。また、予想もつかない変化の連続で、価値観を転換しなければならない社会情勢にあっても、佐野市の未来を見据え、今手を打たなければならない政策を前に進めていかなければなりません。そのためには、新しい考え方が必要なのではないかと、私は考えるようになりまし

た。新しい考え方として、私がたどり着いた結論、それは「人とのつながり」を市政運営のすべての根本に置くということでございます。

私はこの「人とのつながり」を市長としての基本姿勢とし、常に市民目線を心掛け、11万7千人の市民すべての市長として、佐野市全体の融和を図ってまいります。さらに、20年後、30年後を見据えた佐野市の仕組みづくりを進めるとともに、私が約束した政策を着実に実行してまいります。

私が掲げた政策は、人生をかけて市民の皆様のために尽くし抜いていくと決めたあの日から今日まで、市民の皆様の幸せと佐野市の発展を一心に願い、佐野市が進むべき道、理想とする佐野市の形を思い描く中で、つくり上げてまいりました。それは、多くの皆様との対話と、市のあり方や政策についての考察を積み重ねる中で、そして、15年前から日課としてきた街頭演説を始めとし、あらゆる機会を通して市民の皆様に訴える中で、磨き上げてきたものでございます。

私が掲げた政策を、今このときに着実に前進させ、社会情勢が大きく変化し、価値観の転換を迫られても、社会の求めに応じて柔軟かつ的確に進化し続ける佐野市、市民の皆様に喜んで住み

続けていただくとともに、市外に住む方々や市外の企業などからも選ばれ続ける佐野市へと変革する決意であります。

私は、「進化する佐野市」、「選ばれる佐野市」をまちづくりの基本理念とし、市長への立候補に際し、2つの重点政策と5つの政策を柱として公約に掲げました。

私が公約に掲げた重点政策の1点目は、「新型コロナウイルス感染症への対策強化」でございます。

新型コロナウイルス感染症への対応では、医療や福祉などに携わる皆様には、これまでも大変なご苦労とご尽力をいただいております。心より感謝申し上げます。感染症対策における最優先事項は、市民の皆様へのワクチン接種であると考えております。まずは、医療従事者などへの接種を迅速に進めてまいります。次に、65歳以上の高齢者につきましては、希望される方への接種を確実に推進してまいります。そして、基礎疾患のある方、高齢者施設などの従事者、60歳から64歳の方への接種につきましても、万全を期してまいります。さらに、警察官、学校や幼稚園の教職員、保育施設の職員など、市民生活の維持に欠かせない方への接種を優先して実施したいと考えております。市民の皆様と一丸となって、オール佐野市で、未だ経験のない

この難事業を成し遂げ、市民の皆様の安全・安心を確保してまいりたいと考えております。

また、今後も情報の開示を積極的に行い、感染予防、感染拡大の防止に全力を挙げるとともに、市民の皆様や事業者の皆様への経済支援なども着実に実施してまいります。そして、市民の皆様方の命と健康を守り、経済活動の安定にも万全を尽くしてまいりたいと考えております。

重点政策の2点目は、「令和元年東日本台風による被害の復旧・復興の加速化」でございます。

いつどこで起こるか分からないのが災害であり、集中豪雨や台風などが近いうちに発生しないとも限りません。大災害を経験した以上は、あらゆる状況を事前に想定し、万全の備えをしておくことが極めて重要でございます。そのため、県が実施する「堤防強化緊急対策プロジェクト事業」の加速化、技術職員の一元化を図るための「技術センター部」の設置などにより、今後起こり得る台風などへの対策を強化して、防災・減災に努めるとともに、災害への対応を迅速化してまいります。そして、市民の皆様方の生命と財産を守り、安全・安心の向上につなげてまいります。

さらに、20年、30年先を見据えた佐野市の仕組みづくりを進めるために、5つの政策テーマを掲げました。

まず1つ目のテーマは、「未来」でございます。

脱炭素社会に向けた取組や、未来技術の活用などを進め、国連が提唱する「持続可能な開発目標」である「SDGs」を推進し、持続するまち佐野を実現してまいります。また、人生100年時代を見据え、シニア世代の方々の地域デビューを応援してまいりたいと考えております。「人とのつながり」で、佐野市の新しい未来をつくり出してまいります。

具体的には、「シニア地域デビュー条例」の制定、「スポーツ医科学センター」の設立、「グランドデザイン構築会議」の設置などを進めてまいります。

2つ目のテーマは、「ひと」でございます。

保育料や医療費など、子育てに必要な経済的負担の軽減を図ることにより、「こどもの街宣言」にふさわしい、子育てがしやすい環境を整備してまいります。また、ボランティア、市民活動、協働の強化などを進めてまいりたいと考えております。

「人とのつながり」で、佐野市の将来を担う輝く人をつくり出してまいります。

具体的には、第2子以降の保育料無料化、高校3年生までの医療費無料化、「公私教育連絡協議会」の設置などを進めてまいります。また、子どもたちの発達の段階に応じて、学校や地域の特色を活かし、職業観や生きていく知恵と力を養うためのキャリア教育を充実させたいと考えております。

3つ目のテーマは、「まち」でございます。

コンパクトシティの推進、スマートシティの研究、公共交通の利便性向上、歴史・伝統・文化・自然・食の観光資源の活用などを進めてまいります。「人とのつながり」で、希望のまち・佐野市をつくり出してまいります。

具体的には、近隣市との連携による新たな観光回廊の創設、林道作原沢入線の展望駐車場の設置、犬伏地区と葛生地区を結ぶ外環状道路の整備などを進めてまいります。

4つ目のテーマは、「安心」でございます。

市民の皆様に健康で長生きしていただくための取組、野生生物による農林漁業への被害防止と共生の研究、児童・生徒の安全強化などに取り組んでまいります。「人とのつながり」で、佐野市に心の安心をつくり出してまいります。

具体的には、「健康長寿佐野づくり推進条例」の制定、医療

従事者と介護従事者の人材確保、鳥獣による農林漁業への被害防止、通学路の安全確保や防犯強化などを進めてまいります。

5つ目のテーマは、「産業」でございます。

商工業・農林業の振興、雇用の創出、地産地消、循環型社会の構築などを推進してまいります。「人とのつながり」で、佐野市に挑戦する産業をつくり出してまいります。

具体的には、「国際防災拠点」の創設、企業誘致や、中核企業が本社機能を移転できる環境の整備、里地・里山の整備、農産物や林産物の地産地消、市内産の木材や漆喰の利用促進などを進めてまいります。

以上の政策を中心として、スピード感をもって取り組みたいと考えております。

私の座右の銘は、「知行合一」であります。これは、知識と行為は一体であり、学んだ知識を基に行動することで、新たな知識を習得していくことでございます。また、知っていても実践しないのであれば、真の知とは言えないのであります。さらに、知識と行動を一つにすることで知恵が生まれます。この知恵を進化へとつなげていかなければなりません。

私が市民の皆様と約束した政策は、実行してこそ市民の皆様

の果実となり、実行することで新たな政策の立案と実施に活かされ、佐野市全体の幸せへとつながり、佐野市の進化を生み出すと考えております。

市長としての市政運営の舵取りは、船出した直後から荒波に立ち向かうものとなりました。しかし、私には、私自身が市長としての初心を忘れず、また、政治家を志したあの日の誓いのままに、これからも市民の皆様とまっすぐに向き合い続ける限り、「人とのつながり」をより強く、より太く、より確かなものにしていけるとの確信がございます。また、私たちがこの「人とのつながり」を大切にすれば、希望に満ちた安心が享受できる佐野市へと変革できると考えております。

誰もが夢を描き叶えることができる未来を実現し、「進化する佐野市」、「選ばれる佐野市」をつくり上げることを誓い、市民の皆様、議員各位のご理解とお力添えを心よりお願い申し上げ、私の施政方針とさせていただきます。

令和3年6月4日

佐野市長 金子 裕